

## 第2回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日時 平成30年1月24日(水) 10:00～11:00

場所 応接室(本庁舎2階)

出席者 委員長：知事

委員：菊池克彦、菊池信太郎、佐々木孝司、蜂須賀禮子、本多環、  
横田純子(50音順)

事務局 企画調整部 櫻井部長

企画調整課 増田課長、佐藤主幹、中村主任、佐久間副主査、富田主事

### 1 全体的な趣旨等について

- ・ 今回は2018年のメッセージなので、振り返った時に2018年が見える内容とすべき。
- ・ 震災は大変だったけど、福島が一つになるきっかけにもなった。
- ・ 復興では、新しい世の中を作ることが、ひとつのゴール。
- ・ 遠く避難されている方々にも届いて欲しい。
- ・ 福島県出身というアイデンティティを失ってしまった子どもたちが、それを取り戻すきっかけになればいい。
- ・ 子どもたちの状況が多様化しており、まだ困っている子たちにも届くようなメッセージにしたい。
- ・ 子どものことや、そこに関わっている方たちのことをなるべく汲み上げたい。
- ・ 人口が減っている中、「子どもや苦しんでいる方もちゃんと見ているよ、元気にするよ」というメッセージにしたい。
- ・ 福島県民だけでやろうというのではなくて、頼る力をうまく活用しながら、人が集う、魅力に溢れた日本一の福島を作っていこうというメッセージとしたい。
- ・ 自力で頑張ることに加え、福島を応援しようという国内外のたくさんの方々と一緒に力を合わせたら、ものすごく効果が広がる。

### 2 本文の記載方法について

- ・ 文章を作る時に、くどくならないようまとめ、同じ言葉は繰り返さない。
- ・ 漢字の「等」ではなくて、ひらがなの「など」で統一する。

### 3 本文の内容について

- ・ 福島は桜など花で有名なので、花を入れたい。
- ・ 小中学校等の再開など、若者が育つ環境を取り戻しつつあることを入れたい。
- ・ 子どもたちが笑顔に溢れ、声が響き渡るようになったことを入れられないか。
- ・ 統合・新設された小高産業技術高校や、一期生が卒業するふたば未来学園を入れたい。
- ・ こども園や学校の再開は希望の象徴である反面、原発事故前から比べるとまだまだであり、光と影が複雑に入り交じっている状況。
- ・ ふたば未来学園やJヴィレッジなどは、初めて見た人でも分かるような説明があるとよい。
- ・ 県政報告のような文章にならないよう留意する必要がある。
- ・ 県の人口が190万人を切ったことは驚くべき事。
- ・ 一番最後の部分で、強いメッセージが欲しい。

### 4 県民等の声について

- ・ 段落を代表するような引用でなければ、伝わらない。
- ・ 先に本文をある程度、固めてから引用文を検討した方がいい。
- ・ 引用を選ぶ上で一番大事なのは、実体験。自分で体験した人の文章がいい。
- ・ 震災体験をした方たちの言葉が、心を打つ。
- ・ 実体験の「復興」という言葉と、大人に言われて、ただ真似している「復興」という言葉とは、天と地の差がある。
- ・ 他県から見た県民の姿、福島へのエールを入れたい。
- ・ 子どもたちの、こういうつらい体験をしたので、福島復興に携わりたい、全国で頑張りたいというものを入れたい。
- ・ 逆境を経験してるからこそ、世のため人のため、恩返しという言葉が当たり前のように出てくる。
- ・ 新成人式のあいさつが参考になる。震災当時は中学1年生なので、覚えている。
- ・ 子どもたちは夢とか将来とか希望がいっぱいあるよという内容を入れたい。
- ・ 最後に、「チームふくしま」を入れたい。

### 5 発信について

- ・ 3. 11のメッセージを国内・世界に発信できるようにしたい。
- ・ 全国に発信するため、有名人にお手伝いいただけるとよい。
- ・ 今年も、また新しい工夫をしたい。